



シリーズ 千葉の地域紹介 千葉市

- ・人口：977,752人
(平成31年1月1日現在)
- ・市の花木：キョウチクトウ
- ・市の花：オオガハス
- ・市の木：ケヤキ
- ・市の鳥：コアジサシ

都市アイデンティティ～ 「千葉市らしさ」の確立を目指して

千葉市都市アイデンティティ推進課

千葉市は、千葉県のほぼ中央部、東京まで約40kmの地点にあり、県内幹線道路及びJR・私鉄などの鉄道の起点などとして、県都にふさわしい要衝の地です。市域は中央区・花見川区・稲毛区・若葉区・緑区・美浜区の6つの行政区からなり、東京湾に接し、温暖な気候と豊かな緑や水辺などの自然環境に恵まれています。

■「都市アイデンティティ」の 確立を目指して

千葉市では、本市に愛着と誇りを持ち「住み続けたい」と思っていたら、市外からも「住んでみたい」「訪れてみたい」と感じていただくため、本市固有の歴史やルーツに根差した「都市アイデンティティ」を確立することを目的として、平成28年4月に「都市アイデンティティ戦略プラン」を策定し、本市の重要な歴史的資源である「加曽利貝塚」「オオガハス」「千葉氏」「海辺」の4つを地域資源として活用し、「千葉市」らしいまち・ひと・くらしづくりを進めています。

■「加曽利貝塚」～日本最大級の 貝塚・縄文人の生活の証

加曽利貝塚は、縄文時代中期の貝塚を含む環状集落と後期の貝塚を含む馬蹄形集落からなる日本最大級の縄文集落跡で

あり、その重要性が再認識され、平成29年10月に国の特別史跡に指定されました。

千葉市では、29年度から45年ぶりとなる本格的な発掘調査を実施するなど、縄文文化と貝塚の性格を究明し、その成果を世界に発信していく拠点を目指し、計画的な調査研究に着手しています。また、民間企業の企画・運営による縄文体験プログラムを新たに実施したほか、縄文まつりやナイトミュージアムなどのイベントを充実するなど、集客力の向上にも取り組み、多様なPRに努めています。

今後は、加曽利貝塚とその周辺地域における一体的な整備活用の将来像を描いた「特別史跡加曽利貝塚ランドデザイン」に基づき、後世へ守り伝えていくとともに、整備と活用を図っていきます。



加曽利貝塚の発掘調査現地説明会。
全国各地から見学に訪れます。

■「オオガハス」

～古代のロマンを秘めた世界最古の花

昭和26年に植物学者大賀一郎博士によって発掘された古代ハスの実は、今から約2,000年前のものとされており、その花オオガハスは、世界最古の花と言われています。

毎年6月には千葉公園で「大賀ハスマつり」を開催し、講演や体験イベントなどを実施していますが、今年度は新たに夜のイベントである「YohaS ～夜ハス～」を開催し、池の水面をプロジェクションマッピングで彩るなど幻想的な演出やアーティストのライブなどを行いました。また、ハスのガイドや栽培に係わっていただく人材を育成する「ハス守りさん」の養成にも取り組んでいます。

今後は、開花70周年にあたる2022年を目標とした「オオガハスPRアクションプラン」を策定するなど、市民や企業との連携も視野に入れた魅力発信に取り組んでいきます。



見物客で賑わう大賀ハスマつり（千葉公園）



YohaS ～夜ハス～のプロジェクションマッピング

■「千葉氏」～千葉市の礎を築いた一族

千葉氏は桓武天皇の血を引く関東の名族であり、本市の都市としての礎を築いた一族です。一族中興の祖と言われた常胤は、房総に逃れてきた源頼朝を支援して鎌倉幕府の成立に大きく貢献し、全国に獲得した所領を千葉六党と呼ばれる常胤の6人の息子たちが引き継ぎ、各地に広がっていった歴史を持っています。

市では、マンガ「千葉常胤公ものがたり」などによる郷土教育や、郷土博物館での企画展示、千葉氏ゆか



第2回千葉氏サミットでは、首長らが狩衣に身を包み騎馬武者行列を行いました。

りの自治体の首長が参加する千葉氏サミットなどによる自治体連携の推進などに取り組むとともに、漫画「北斗の拳」とのコラボレーションを通じ、千葉氏をより身近に感じられるよう、PRに努めています。

今後は、千葉開府900年に向けたロードマップ～千葉氏PR計画～を策定し、目標年次である2026年度を目指し、企業や団体などと連携した取組みを進めるとともに、千葉氏にゆかりのある千葉神社に隣接する通町公園の再整備を進めていきます。

■「海辺」～海辺とまちが 調和するアーバンビーチ

いなげの浜・検見川の浜・幕張の浜の3つの人工海浜の総延長は4.3kmに及び、日本一の長さを誇ります。我が国初の人工海浜であるいなげの浜は、海水浴場としてプールとともに多くの人で賑わい、検見川の浜ではマリンスポーツ、幕張の浜では幕張ビーチ花火フェスタ、レッドブル・エアレースなどが開催され、隣接するZOZOマリンスタージアムや幕張メッセは多くの来場者で賑わっています。

市では、「海辺のグランドデザイン」に基づき民間事業者との連携による海辺を活かしたまちづくりを進めており、平成28年3月には、レストランやバーカリーカフェ、イベントなどに利用できるホールやバンケット（集会場）など、海辺の魅力を最大限に活かした施設「ザ・サーフ オーシャンテラス」が検見川地区にオープンしました。

引き続き、いなげの浜を擁する稲毛海浜公園において、年間を通して海を楽しんでいただけるよう、白い砂浜への改修やバーベキュー場の整備な



子ども流鏝馬で当時の文化に親しむ



「ザ・サーフ オーシャンテラス」海の見えるレストラン



稲毛海浜公園リニューアル事業（全体イメージ図）

どのリニューアルを進めるとともに、検見川ビーチフェスタを開催するなどハード・ソフトの両面で取組みを推進してまいります。